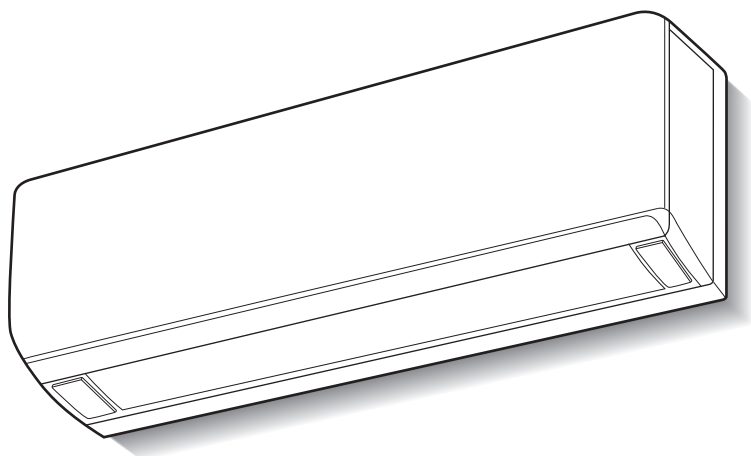


ルームエアコン

IRR-2219GX

取扱説明書

室外機：IUF-2219GX



この商品は海外ではご使用になれません。
FOR USE IN JAPAN ONLY

このたびは、お買い上げいただきまことにありがとうございます。
また、この取扱説明書をよく読んで、正しく使用してください。

- この取扱説明書をよく読んで、正しく使用してください。
- 使用する前に「安全上の注意」を必ず読んでください。
- この取扱説明書は使用する方がいつでも見ることができるよう大切に保管してください。
- 「保証書」は「お買い上げ日」「販売店名」の記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

もくじ

ご使用の前に

安全上の注意	2
使用上の注意	5
リモコンについて	5
各部の名称	6

取り扱いかた

使いかた	9
お手入れ	13

こんなときには

故障かな？と思ったら	15
長期使用製品について	17
仕様	18
保証書とアフターサービス	19

安全上の注意

最初に、この「安全上の注意」をよく読んでいただき、正しく使用してください。
人への危害や、財産への損害を未然に防止するため、必ず守る必要があることを説明しています。

図記号の意味



注意を促す記号です。



禁止を示す記号です。



必ず行うことを示す記号です。



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う
おそれがある内容を示しています。

電源プラグ・電源コードについて



- 電源プラグのほこりは定期的に取り
ほこりがたまると、湿気などで絶縁不良に
なり、火災・感電の原因になります。
- 電源プラグはコンセントの奥まで確実に
差し込む
ショートによる火災・感電の原因になります。
- 電源は必ずルームエアコン専用のコン
セントに接続する
他と共用のコンセントや古いコンセント
は使用しないでください。火災・感電の原
因になります。



ぬれ手禁止

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをし
ない
感電・やけど・けがの原因になります。



- 電源コードをたばねて通電しない
過熱してやけど・火災の原因になります。
電源コードは、必ずのびして使用してくだ
さい。
- 電源コードや電源プラグが傷んだり、
コンセントの差し込みがゆるいときは
使わない
ショートによる火災・感電の原因になりま
す。電源コードが破損したときは、アイリ
スコールへお問い合わせください。
- 電源コードを傷付けない
- 電源コードをステーブルなどで固定し
ない
傷つける、加工する、無理に曲げる、引っ
張る、ねじる、重い物を載せる、挟み込む
などしないでください。
電源コードが破損し、火災・感電の原因に
なります。
- 延長コードは使用しない
- 電源コードを抜いてエアコンを停止し
ない
火災・感電の原因になります。

設置について



- 設置・移設はお買い上げの販売店また
は設置専門業者に依頼する
自分で行くと、火災・破裂・感電・けが・
水もれの原因になります。
- アース工事は販売店または専門業者に
依頼する
アースが不完全だと、感電の原因になりま
す。
- 室内機の配管取り出し口が、移設など
で開いてしまったときは、開口部をふ
さぐ
内部の回路に触れると、感電・けが・やけ
どのおそれがあります。



- アース線は、ガス管や水道管、電話線
や避雷針のアース線には絶対に接続し
ない
爆発・火災の原因になります。
- 指定の冷媒（R32）以外は使用禁止
本製品はR32専用です。他の冷媒とまざ
ると有害な不純物が発生する可能性があ
ります。

異常時には



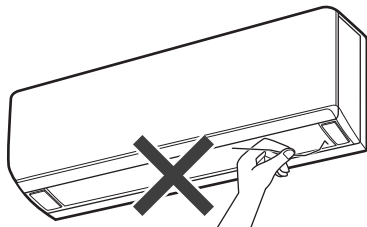
プラグを抜く

- 直ちに使用を中止し、電源プラグをコ
ンセントから抜く
発煙・火災・感電のおそれがあります。
【異常の例】
 - ・ 内部に水・異物などが入った
 - ・ 異常な音やにおいがする
 - ・ 変形したり、ひび割れしたりしている
 - ・ 電源プラグ・電源コードが異常に熱くな
る
 - ・ 電源コードを動かすと、通電したりしな
かったりする
 - ・ 触れるとビリビリ電気を感じる→使用を中止し、お買い上げの販売店または
アイリスコールへお問い合わせください。

禁止事項



- 吹き出し口・吸気口・すき間から物や手を入れない
内部には高速回転するファンや高電圧部があるので、感電やけがの原因になります。



水ぬれ禁止

- 室内機本体を水につけたり、本体に水をかけない
火災・感電の原因になります。



注意

誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり、物的損害が発生するおそれがある内容を示しています。

リモコンの電池についての注意



- 電池を入れるときは、極性表示（プラス+とマイナス-の向き）に注意し、説明書の通りに正しく入れる
間違えると、破裂・液もれにより、火災やけが、周囲を汚損する原因になります。
- 長期間使用しないときは電池を取り出しておく
液がもれて、火災やけが、周囲の汚損の原因になります。
液がもれた場合は、電池ケースに付いた液をよく拭き取ってから、新しい電池を入れてください。万一、もれた液が身体に付いたときは、水でよく洗い流してください。



分解禁止

- 分解しない
皮膚や衣服を損傷することがあります。



- 金属製の小物類と一緒に携帯・保管しない
ショートして液もれや破裂の原因になることがあります。
- 指定以外の電池は使用しない
過熱・破裂・液もれにより、火災やけが、周囲を汚損する原因になることがあります。
- 乾電池は絶対に充電しない
破裂・液もれにより、火災・けが・やけどの原因になります。

室内機について



- 室内機の下に他の電気製品や家財を置かない
水滴が落ちることがあり、汚損や故障の原因になります。
- 室内機の上に物を載せない
- 室内機に洗濯物などをかけない
落下して、けがや火災の原因になります。
また、風の流れをふさぐと、過熱して火災の原因になります。
- 吹き出し口・吸気口を布や紙、ビニール袋でおおったりふさいだりして運転しない
- 風の流れをささげるようなものを周囲に置かない
過熱して火災の原因になります。

お手入れについて



- 前面パネルやエアフィルターを水洗いしたときは、水気を拭き取って、よく乾かしてから取り付ける
水気が残っていると感電の原因になります。



- お手入れのときは、不安定な台に乗らない
転倒してけがの原因になります。
- 室内機内部の金属部に触れない
けがをするおそれがあります。

安全上の注意 つづき

使用上の注意

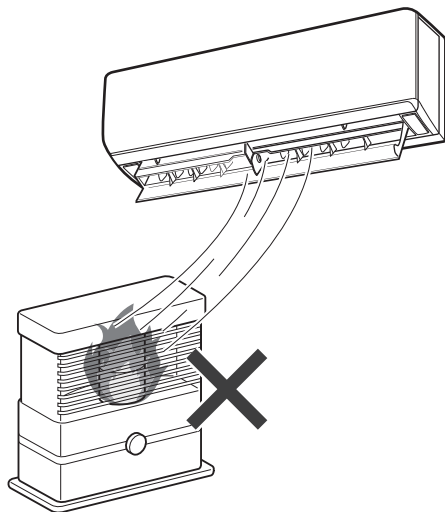


- 食品・医薬品・美術品・学術資料の保存など、業務・特殊用途に使用しない
本製品は家庭用として設計されています。業務・特殊用途に使用すると、保存品の劣化の原因になります。

- 長時間冷風を身体に当てない
- 冷房温度を下げすぎない
特に、小さなお子様やお年寄りには注意してください。体調が悪化したり健康を害する原因になります。

- 動植物に直接風を当てない
害を与えるおそれがあります。

- 風をストーブなどの燃焼器具に向けない
不完全燃焼や炎の飛散を引き起こし、一酸化炭素中毒や火災の原因になります。



- 煙や霧が出るくん煙タイプの殺虫剤を使うときは運転しない
エアコン内部に薬剤成分が蓄積し、その後の運転で放出されて、健康を害するおそれがあります。殺虫剤の使用後は、十分換気してから運転してください。

- 床にワックスがけをするときは運転しない
エアコン内部にワックス成分が付着し、水もれの原因になります。ワックスがけの後は、十分に換気してから運転してください。



- 燃焼器具と一緒に使う場合は換気する
一酸化炭素中毒の原因になります。
※ 本製品は、一酸化炭素などの有害物質を除去するものではありません。

ドレン水について



- ドレン水(エアコンから発生する水)が確実に排水されていることを確認する
水もれて周囲を汚損する原因になります。
特に、冷房シーズンの始まりには注意してください。ドレンホース(排水管)の勾配が適切に付いてなかったり、詰まっていたりすると水もれの原因になります。

電源プラグ・電源コードについて



プラグを抜く

- 長期間使わないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く
絶縁低下により、火災・感電の原因になります。
- お手入れするときは、必ず運転を停止して、電源プラグを抜く
けがの原因になります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って引き抜く
電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。

異常時は



- エアコンを運転しても冷えない・暖まらないときは、販売店または修理専門業者に相談する
冷媒がもれているおそれがあります。冷媒自体は無害ですが、室内にもれて、他のガスと混合したり、火気に触れたりすると、有害な成分が発生する原因になります。

室外機について



- 1年に1度は、室外機の設置台などが傷んでないか確認する
落下・転倒によるけがの原因になります。



- 上に乗ったり、物を載せたりしない
落下・転倒によるけがの原因になります。
- 室外機をシートなどでおおったり、周囲に物を置いたりしない
過熱して火災の原因になります。
- 室外機の周囲にごみや落ち葉をためない
小動物が侵入し、漏電や火災の原因になります。

使用上の注意

- 暖房運転時、室外機に霜が付いた場合は、自動で霜取りを行います。

霜取り運転中は、暖房が停止し、室内機から冷風が出ることがあります。霜が溶けるときに、室外機から湯気や水が発生することがあります。

- 落雷のおそれのあるときは、運転を停止し、電源プラグを抜いてください。

落雷すると故障の原因になります。

廃棄について

- 製品や梱包材の廃棄については、お住まいの自治体の取り決めにしたがって処理してください。

冷媒に関する注意



この家庭用エアコンには、GWP（地球温暖化係数）が675のフロン類（R32）が封入されています。フロン類が排出されると地球温暖化が進みます。移設・修理・廃棄するときは、フロン類の回収が必要です。
フロン類に関するお問い合わせは、アイリスコールへお願いいたします。

リモコンについて

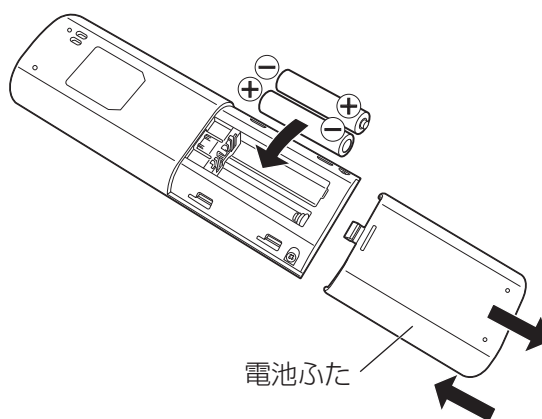
リモコンの表示部に $\square$ マークが点灯したときは、早めに電池を交換してください。

■電池の交換方法

新しい電池（単4形乾電池×2本）を用意し交換してください。

電池ふたを開け、電池を入れ替える

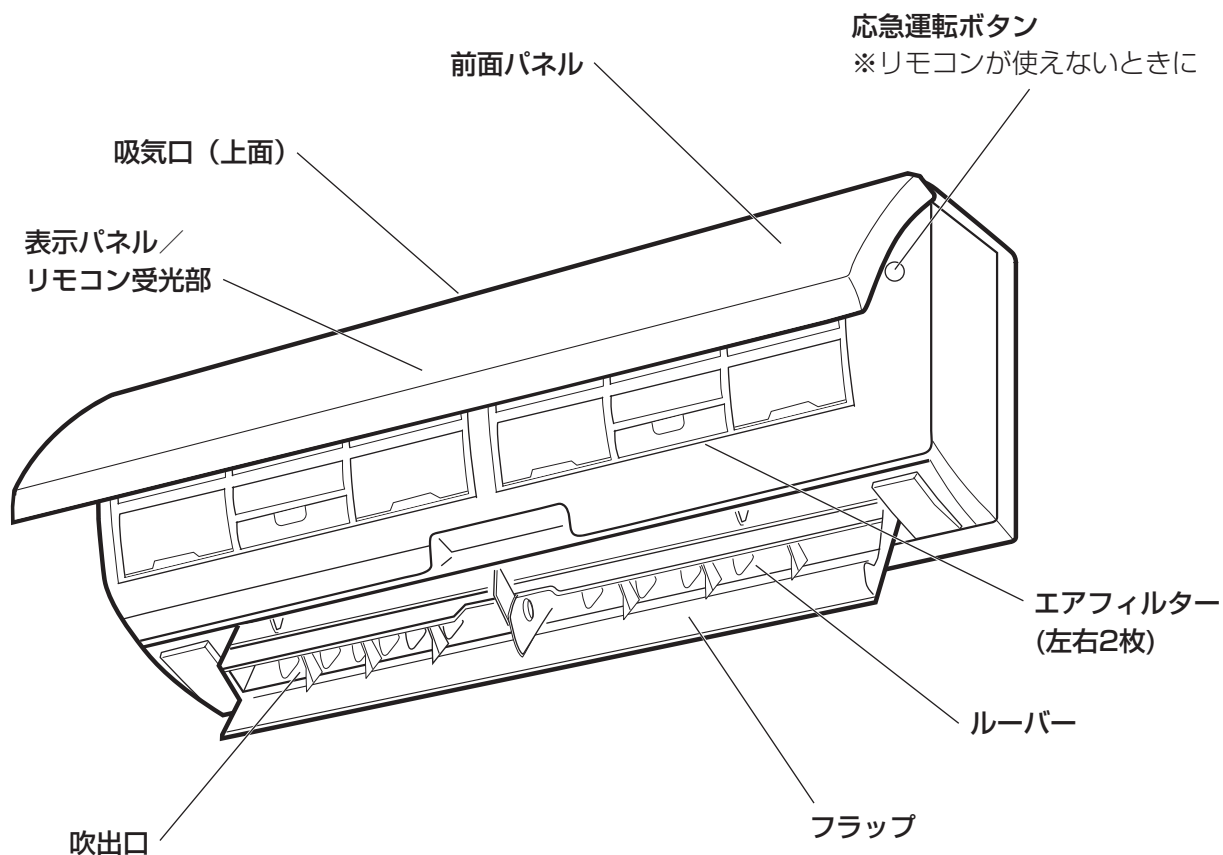
1. 電池ふたを押さえながら下にずらして開けます。
2. 古い電池を取り出し、⊕と⊖の向きを合わせて、新しい電池を入れます。
3. 電池ふたをしっかりと閉めてください。



- 電池を誤って取り扱うと、破裂・液もれ・やけど・周囲の汚損の原因になります。3ページ「リモコンの電池についての注意」をよく読んで使用してください。

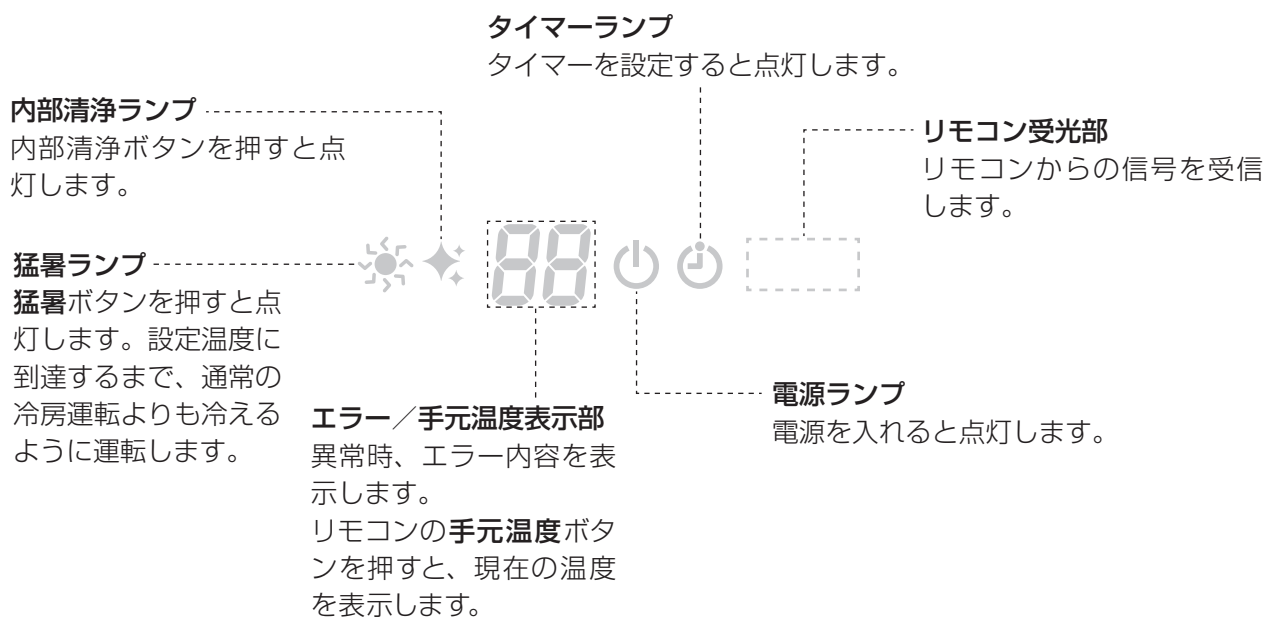
各部の名称

■室内機

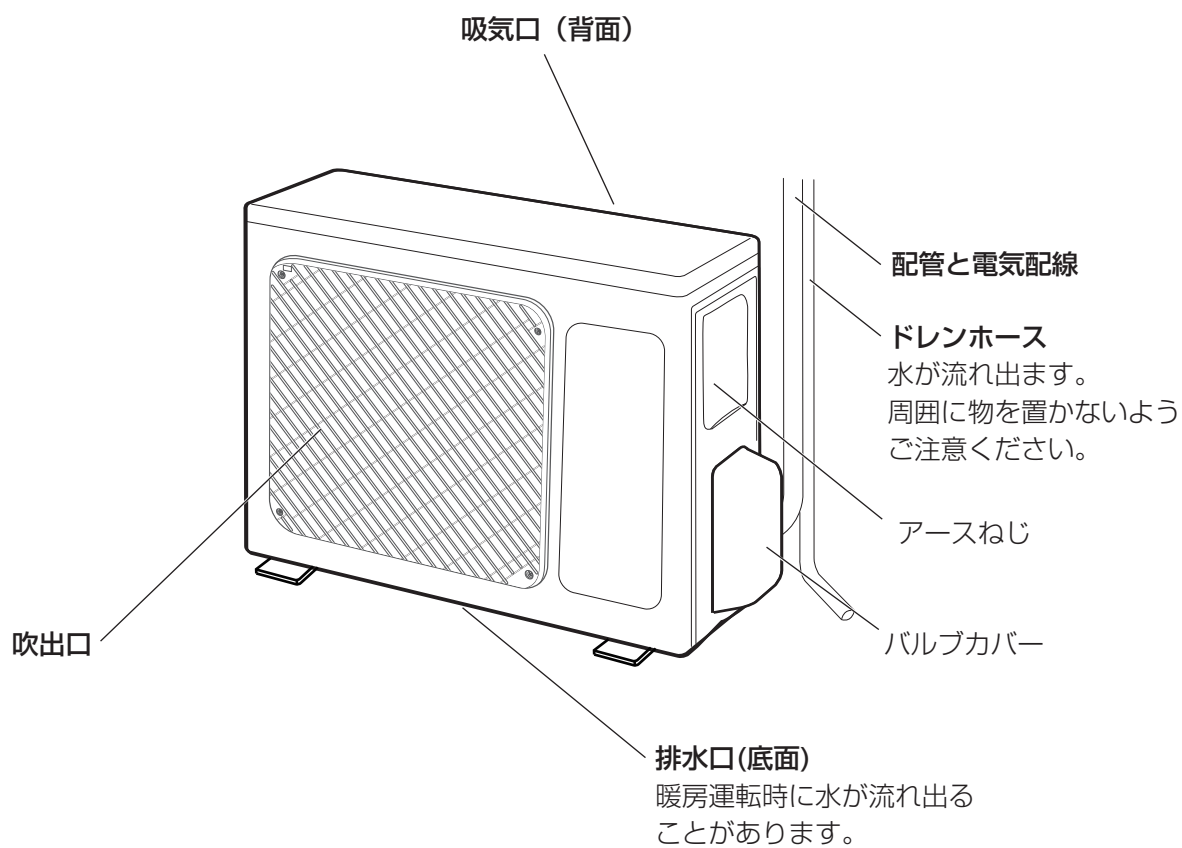


■表示パネル（室内機）

実際の表示は、前面パネル上に浮かび上がるように表示されます。



■ 室外機



各部の名称 つづき

■リモコン

赤外線発光部

室内機表示パネルのリモコン受光部に向けて操作してください。

運転モードボタン

ボタンを押すと、選んだモードで運転が始まります。運転中に押すと、選んだモードに切り替わって運転します。(→P9)

風量ボタン

運転中に押すと、風量が切り替わります。(→P10)

しずかボタン

最も弱い風量で静かに運転します。(→P10)

タイマーボタン

切タイマーボタンを押すごとに設定時間が1時間増加し、切タイマーがスタートします。入タイマーボタンを押すごとに設定時間が1時間増加し、入タイマーがスタートします。取消ボタンを押すとタイマーは取り消されます。(→P11、12)

おやすみボタン

運転中に押すと、おやすみモードで運転します。おやすみモード運転は8時間です。(→P11)



表示部

運転中に、運転の状態や設定温度・タイマー設定時間などを表示します。

温度 $\wedge$ / $\vee$ ボタン

運転中に設定温度を変更します。16 ~ 30°Cの範囲で設定できます。(→P9)

風向ボタン

運転中にボタンを押すたびにフラップの上下の角度が変わります。運転を停止するとフラップは閉じます。(→P10)

スイングボタン

ボタンを押すと、フラップが上下スイングします。スイング中にもう一度スイングボタンを押すと好みの位置でフラップがとまります。(→P10)

手元温度ボタン

ボタンを押すと、室内機表示パネルに現在温度が表示されます。しばらくすると表示は消えます。(→P12)

内部清浄ボタン

ボタンを押すと内部清浄します。(→P12)

使いかた

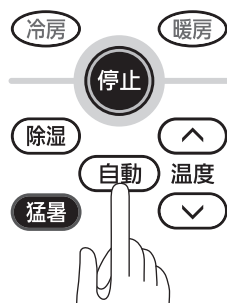
注意 ●エアフィルターが確実に取り付けられていることを確認してください。

ほとんどの操作はリモコンで行います。

- ・リモコンの赤外線発光部を、本体正面のリモコン受光部に向けて操作してください。
- ※角度や距離によっては信号が受信できないことがあります。できるだけリモコン受光部正面から、受信できる距離で操作してください。(正面で約5m以内)

■運転する

自動・冷房・暖房・除湿・猛暑いずれかの運転モードボタンを押す



- ・室内機表示パネルの電源ランプが点灯し、フラップが開いて、選んだモードで運転が始まります。



- ・運転中に他の運転モードボタンを押すと、モードが切り替わって運転します。

自動

- ・リモコンの表示部に**自動**と表示され、温度を検知して、20～25℃を目標に、自動で冷暖房を切り替えて運転します。(風量設定は3段階と自動に設定できます。)

冷房

- ・リモコンの表示部に**冷房**と表示され、設定した温度を目標に冷房運転します。
- ・温度設定・風量設定ができます。
- ・**風量ボタン**で**風量自動**に設定した場合、検知した温度によって風量を自動で切り替えて運転します。

暖房

- ・リモコンの表示部に**暖房**と表示され、設定した温度を目標に暖房運転します。
- ・温度設定・風量設定ができます。
- ・**風量ボタン**で**風量自動**に設定した場合、検知した温度によって風量を自動で切り替えて運転します。
- ※暖房運転時は、室内機・室外機の運転音が大きくなることがあります。
- ※暖房運転時は、室外機に霜が付くのを防止するために、自動で霜取りを行います。霜取り運転中は、暖房が停止します。

除湿

- ・リモコンの表示部に**除湿**と表示され、自動で風量を切り替えて、除湿運転します。(手動で風量設定はできません。)
- ・除湿運転では、部屋を暖めることはできません。

猛暑

- ・リモコンの表示部に**冷房・風量** と表示され、室内機表示パネルの猛暑ランプが点灯します。設定温度に到達するまで、通常の冷房運転よりも冷えるように運転します。温度設定・風向設定、スイングができます。



- ※**風量**ボタンを押すと、通常の冷房運転に戻ります。
- ※リモコンの設定温度が24～30℃の場合は、24℃を目標に運転します。

■運転を停止するには

停止ボタンを押す



- ・室内機表示パネルの電源ランプが消灯し、フラップが閉じて、運転が停止します。



■温度設定

温度 ボタンで変更する

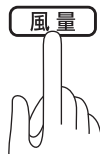


- ・運転中(自動モードを除く)に、**温度** ボタンを押すと、リモコンの表示部の温度表示が変わり、設定温度が変更されます。**16～30℃**の範囲で設定できます。

22℃

■ 風量設定

風量ボタンで変更する



- ・ 自動、冷房、暖房運転中に、**風量**ボタンを押すたびに、リモコンの表示部の風量の表示が変わり、風量が切り替わります。



※ 自動は風量 3 本にできません。

■ 風向調節（上下）

風向ボタンで変更する



- ・ 運転中に**風向**ボタンを押すと、リモコンの表示部が次のように切り替わり、フラップの角度を変更できます。



スイングボタンで変更する

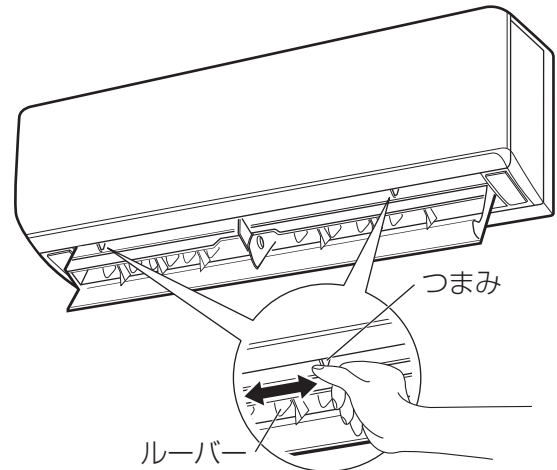
- ・ 運転中に**スイング**ボタンを押すと、リモコンの表示部に次のように表示され、フラップが上下スイングします。スイング中にもう一度**スイング**ボタンを押すとお好みの位置でフラップがとまります。



■ 風向調節（左右）

ルーバーのつまみを手で動かして調節する

- ・ リモコンの**風向**ボタンでフラップを開いた状態に調節し、ルーバーのつまみを手で動かしてください。
- ・ ルーバーは左側と右側を別々に調節できます。部屋の間取りなどに応じて調節してください。

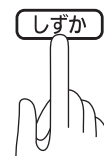


注意

● 奥まで指を入れないでください。
ファンが高速で回転しているため、けがをするおそれがあります。

■ しずかモード

しずかボタンで変更する



- ・ 運転中（除湿を除く）に**しずか**ボタンを押すと、リモコンの表示部の風量表示が、最も弱い風量に切り換わります。

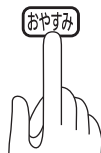
しずかモードを終了するには、**風量**ボタンを押す



■おやすみモード（冷房・暖房モード時）

冷房時は徐々に温度を上げ、暖房時は徐々に温度を下げて、急激な温度変化をなくし、快眠をサポートする機能です。

おやすみモードにするには、**おやすみボタン**を押す

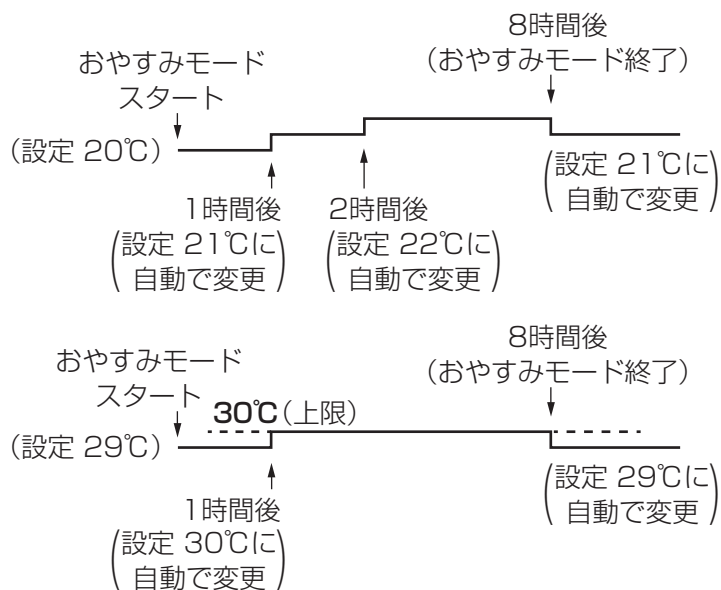


- ・リモコンの表示部に**おやすみ**が点灯します。

冷房運転の場合

- ・冷房運転中に**おやすみモード**にすると、風量は自動になり、2時間後まで1時間ごとに1℃設定温度を上げて運転します。（最高30℃まで）
- ・8時間経過すると、おやすみモードは終了します。その後、設定温度を1℃下げて継続運転します。

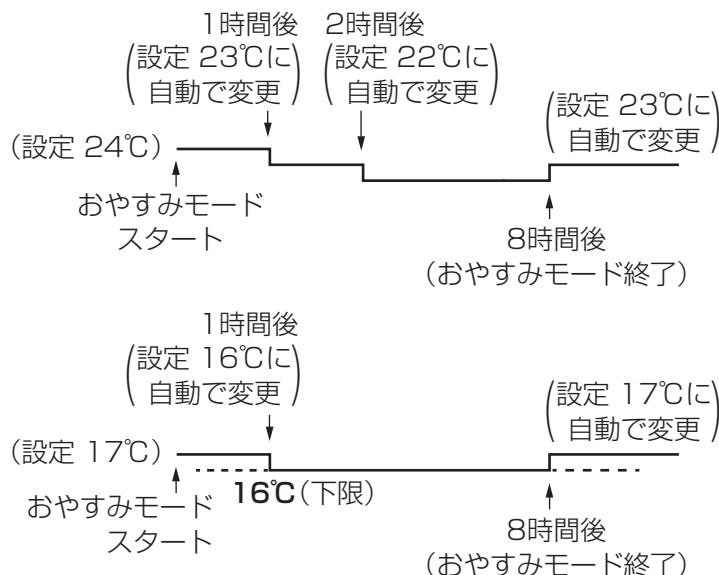
例（冷房運転）



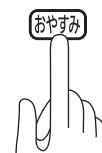
暖房運転の場合

- ・暖房運転中に**おやすみモード**にすると、風量は自動になり、2時間後まで1時間ごとに1℃設定温度を下げて運転します。（最低16℃まで）
- ・8時間経過すると、おやすみモードは終了します。その後、設定温度を1℃上げて継続運転します。

例（暖房運転）



おやすみモードを途中で終了するには、再度**おやすみボタン**を押す



- ・リモコンの表示部の**おやすみ**が消灯します。

■タイマー

運転中に**切タイマーボタン**を押して設定する



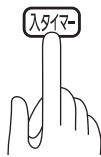
- ・**切タイマーボタン**を押すたびに、リモコンの表示部に時間が表示され、タイマーがスタートします。

5切

- ・設定時間が経過すると、室内機の**電源ランプ**が消灯し、フラップが閉じて、運転が停止します。

使いかた つづき

停止中に**入タイマー**ボタンを押して設定する



- ・ **入タイマー**ボタンを押すたびに、リモコンの表示部に時間が表示され、タイマーがスタートします。

12入

- ・ 設定時間が経過すると、室内機表示パネルの**電源**ランプが点灯し、フラップが開いて、運転が始まります。
- ・ 切タイマー・入タイマーとも、1時間単位で18時間まで設定できます。
- ・ タイマー動作中は、室内機表示パネルの**タイマー**ランプが点灯します。



タイマーを取り消すには、**取消**ボタンを押す

- ・ 設定されていたタイマーはキャンセルされ、**タイマー**ランプは消灯します。



■手元温度

運転中にボタンを押すと、室内機表示パネルにリモコンで測定した現在温度が表示されます。しばらくすると表示は消えます。

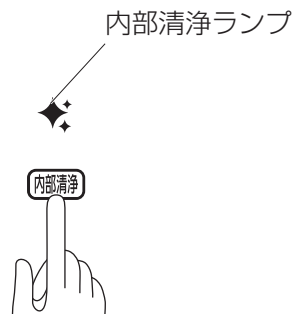


※ 部屋の大きさの違いやリモコンの位置によって、手元温度と設定温度の差が大きい場合があります。

■内部清浄機能

内部をきれいな状態に保つための機能です。

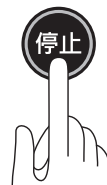
内部清浄ボタンを押すと、室内機表示パネルに以下のように表示され、内部清浄が始まる



- ・ リモコンの表示部に**内部清浄**と表示され、30～40分内部清浄し、自動で停止します。
- ・ 温度の変化により、「ピシッ」という音がする場合があります。
- ・ すでに発生したかびは内部清浄では取れません。また、内部清浄をしても使用状況や環境により、カビやにおいが発生することがあります。その場合、エアコン内部の洗浄をおすすめします。
- ・ 内部清浄中に**冷房、除湿、暖房、猛暑**ボタンを押すと、押したボタンの運転になります。ただし、製品保護のためすぐに運転が変わらない場合があります。
- ・ 内部清浄中に**入タイマー**を設定すると、内部清浄は中止されます。ただし、製品保護のためすぐに停止しない場合があります。
- ・ 室温や外気温が低い場合は、内部清浄しません。数分間運転後、停止します。

内部清浄を途中で停止するには

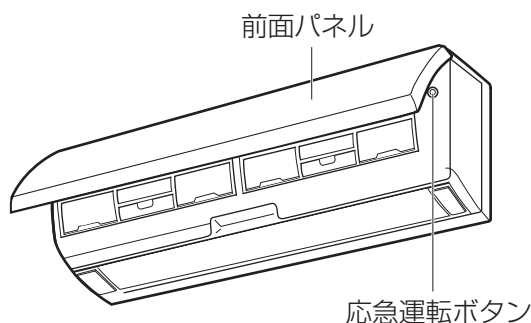
停止ボタンを押す



■応急運転

リモコンを紛失したり、電池が切れたりしたときに、本体で応急運転ができます。

- ・ 運転モードや設定温度は、室温により自動で選ばれます。(フラップはスイングします。)



応急運転するには

応急運転ボタンを押す

- ・ 本体の**電源**ランプが点灯します。
- ・ 停止するときは、再度**応急運転**ボタンを押してください。



- **応急運転**ボタンを5秒以上押し続けた場合、移設や廃棄時に使用する「強制冷房運転」モードとなり、室内機表示パネルに「F0」が表示されます。そのときは、**応急運転**ボタンを短く押して停止し、もう一度**応急運転**を行ってください。

お手入れ



- 内部の洗浄は自分で行わないでください。誤った方法で内部の洗浄を行うと、破損して火災や感電の原因になります。エアコン内部の洗浄は専門の業者に依頼してください。



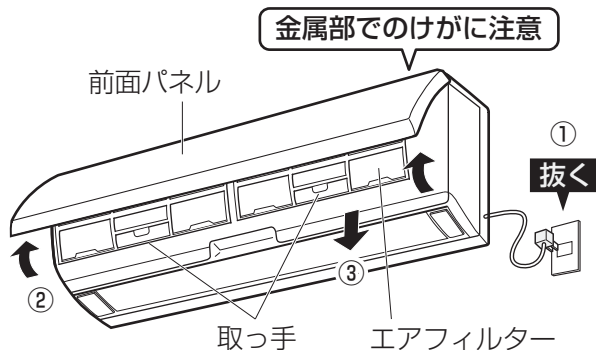
- お手入れのときは、不安定な台に乗らないでください。
- エアフィルターを水洗いしたときは、十分に乾かしてから取り付けてください。
- 室内機内部の金属部に触らないでください。

- シンナー、アルコール、ベンジン、アルカリ性・酸性の強い洗剤、漂白剤などは使用しないでください。

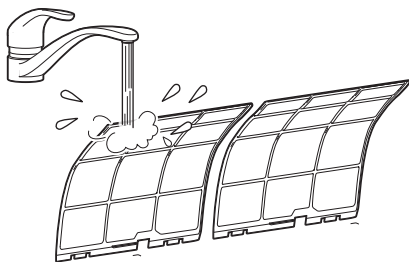
■エアフィルター 2週間に1回程度

1 前面パネルを開け、エアフィルターを外す

- ① 運転を停止し、電源プラグを抜いてください。
- ② 前面パネルの左右側面を持ち、手前に引き上げてください。
- ③ エアフィルターの取っ手を少し持ち上げて、引き抜いてください。



2 ほこりを掃除機などで吸い取るか、水洗いする

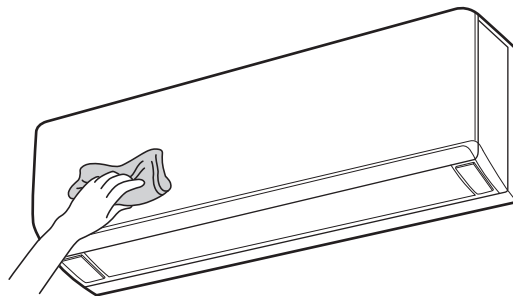


※水洗いした後は、よく乾かしてから取り付けてください。

■室内機表面

水またはぬるま湯（40℃以下）を含ませた柔らかい布をよく絞って、汚れを拭き取る

※汚れが落ちにくいときは、薄めた中性洗剤を含ませた布で拭いた後、固く絞った布などで洗剤分を拭き取ってください。



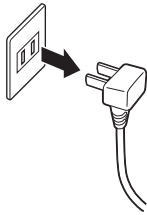
- 水をかけないでください。感電・けが・故障の原因になります。
- 化学ぞうきんを使用する際は、その注意書きにしたがってください。

お手入れ つづき

■ 長期間使用しないときは

- 1 内部を乾燥させる
 - ・ 設定温度**30℃**、風量 **■ ■ ■**、風向 **↗** (スイング) で、3 ～ 4時間**冷房**運転を行い、内部を乾燥させてください。

- 2 運転を停止し、電源プラグを抜く



- 3 エアフィルターのお手入れをする
 - ・ 13ページを参照してお手入れしてください。

- 4 リモコンの電池を抜く

■ 再び使い始めるときは

- 1 エアフィルターが取り付けられていることを確認する
- 2 エアコンの周囲がふさがれていないか確認する
- 3 リモコンに電池を入れる
- 4 電源プラグをコンセントに接続する

故障かな？と思ったら

使用中に異常が生じた場合は、修理を依頼される前に本書をよくお読みのうえ、以下の点を確認してください。

状 態	考えられる理由	処 置
電源が入らない	●電源プラグがコンセントに確実に差し込まれてない	●電源プラグをコンセントに確実に差し込んでください。
	●ブレーカーが切れている	●エアコンの回路のブレーカーを入にしてください。
風が止まる	●暖房運転中、室外機の自動霜取りが働くと、温風が停止する	●自動霜取りが終了すると、運転が再開します。
	●自動、除湿、猛暑モードまたは冷房、暖房モードを風量自動で運転中、設定温度に達すると、運転を停止する	●温度調節をしています。故障ではありません。
暖房なのに冷たい風が出る	●暖房運転時、室外機が自動霜取りをすると冷たい風が出ることがある	●故障ではありません。自動霜取りが終了すると、暖房運転に戻ります。
リモコンで操作できない	●リモコンの赤外線発光部を、室内機のリモコン受光部に向けていない	●5m以内の距離で、リモコンの赤外線発光部を、室内機のリモコン受光部に向けて、できるだけリモコン受光部の正面から操作してください。
	●リモコンの電池が消耗している	●電池をすべて新しいものに交換してください。
	●電池の向きが合っていない	●電池を正しい向きにセットしてください。
	●リモコンと受光部の間に障害物がある	●障害物を取り除いてください。
	●内部清浄している	●内部清浄中は、内部清浄を停止しないと、他の操作はできません。(→P12)
風量の変更できない	●除湿モードで運転している	●除湿モードでは、風量は自動でコントロールされます。
風量が弱い	●自動、除湿、猛暑モードまたは冷房、暖房モードを風量自動で運転中、部屋の温度が設定温度に近づいた	●自動、除湿、猛暑モードまたは冷房、暖房モードを風量自動で運転中、部屋の温度が設定温度に近づくと、風量が弱くなります。
	●エアフィルターにほこりなどが詰まっている	●エアフィルターをお手入れしてください。(→P13)
フラップが全閉しない	●手でフラップを動かすと、停止したときに、フラップが全閉しないことがある	●次回運転後、停止時にはフラップは全閉します。

故障かな？と思ったら つづき

室内機から霧が出る 室内機に水滴が付く	●湿度の高い空気が急に冷やされると、霧が出たり、水滴が付いたりする	●故障ではありません。 雨の日など、湿度が高いときに冷房する場合は、窓やドアを開けっ放しにしないでください。
室外機から湯気や水が出る	●暖房運転時、室外機が自動霜取りをすると湯気や水が発生することがある	●故障ではありません。
「ポコポコ」という音がする	●ドレンホースの水が逆流する	●部屋の内外の気圧差が大きいと、水が逆流することがあります。窓を少し開けて気圧差を減らすか、ドレンホースに逆流防止弁を取り付けるとなおることがあります。
「プシュッ」という音がする	●運転の停止や切り替え時に、冷媒の流れが切り替わる	●故障ではありません。
「ビシッ」「パキッ」という音がする	●温度変化で樹脂部分が伸び縮みしている	●故障ではありません。
風がおう	●エアコンの運転中にたまっただにおいを吹き出している	●定期的に内部清浄機能を動作させてください。(→P12) ●内部清浄機能でにおいなどが取りきれない場合は、業者に洗浄を依頼してください。
部屋が冷えない・暖まらない	●部屋が面積の目安より広すぎる	●仕切りをして部屋を区切るなど、面積の目安内で使用してください。(→P18「仕様」)
	●窓やドアが開けっ放しになっている	●窓やドアを閉めて使用してください。
設定温度が変わる	●おやすみモードで運転している	●おやすみモードで運転中は、設定温度が徐々に変わります。(→P11)
設定温度を変更できない	●自動モードで運転している	●自動モードでは、設定温度は自動でコントロールされます。(目標温度：20～25℃)
室内機表示パネルに英数字が表示されている	●異常を検知した	●お買い上げの販売店に英数字をご連絡ください。 ●以下の英数字は故障ではありません。エアコンに、過度の負担がかからないよう制御しているときに表示されます。EU・F6・F8・F9・FH
手元温度と設定温度の差が大きい	●部屋の大きさの違いやリモコンの位置によって、手元温度と設定温度の差が生じた	●手元温度はリモコンで測定した温度のため、設定温度と差が生じることがありますが、故障ではありません。

それでも解決できないときは

お買い上げの販売店またはアイリスコールにお問い合わせください。



警告

●自分で分解・修理・改造しないでください。

長期使用製品について

長期間の使用により以下のような症状が見られた場合は、すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店またはアイリスコールにご相談ください。

- 通常使用時に室内機から水がもれる
- 電源コードが折れ曲がったり、破損したりしている
- 据付に問題がなく、リモコンに新しい電池を入れても、リモコンで操作ができない
- 電源コードに触れると電源が切れたり入ったりする
- ブレーカーがひんぱんに切れる
- 焦げたようなにおいがする



使用中止

すぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店またはアイリスコールにご相談ください。

■ 設計上の標準使用期間について

JIS基準に基づく標準的な使用条件下で使用した場合に、安全上支障なく使用することができる標準的な期間を、製品本体に表示してあります。無料修理を行う保証期間とは異なります。

		冷房	暖房
環境条件	電源電圧	単相100V	
	周波数	50 / 60Hz	
	温度（室内）	27℃（乾球温度）	20℃（乾球温度）
	湿度（室内）	47%（湿球温度：19℃）	59%（湿球温度：15℃）
	温度（室外）	35℃（乾球温度）	7℃（乾球温度）
	湿度（室外）	40%（湿球温度：24℃）	87%（湿球温度：6℃）
	設置条件	据付工事説明書による標準的な設置	
負荷条件	住宅	木造平屋、南向き和室、居間	
	部屋の広さ	製品能力に見合った広さの部屋	
想定時間	1年間の使用日数（東京モデル）	6月2日から9月21日までの 112日間	10月28日から翌年4月14日までの 169日間
	1日の使用時間	9時間／日	7時間／日
	1年間の使用時間	1,008時間	1,183時間



注意

製品の劣化や故障は様々な要因に影響されます。表記の標準使用期間に満たないときでも、上記のような異常が見られたときには、ただちに使用を中止し、お買い上げの販売店またはアイリスコールにご相談ください。

仕様

品番	室内機		IRR-2219GX
	室外機		IUF-2219GX
電源			単相100V、50 / 60Hz
電源プラグ形状			㊦
冷房	定格能力		2.2 (0.6 ~ 3.5) kW
	消費電力		440 (150 ~ 1,000) W
	運転電流		5.3 A
	運転音 (音響パワーレベル)	室内機	62dB
		室外機	60dB
	面積の目安	鉄筋アパート南向き洋室	15㎡ (9畳)
		木造南向き和室	10㎡ (6畳)
暖房	定格能力 (標準)		2.5 (0.7 ~ 4.0) kW
	消費電力 (標準)		510 (140 ~ 1,360) W
	運転電流		6.2 (最大15.0) A
	運転音 (音響パワーレベル)	室内機	61dB
		室外機	59dB
	面積の目安	鉄筋アパート南向き洋室	11㎡ (7畳)
		木造南向き和室	9㎡ (6畳)
通年エネルギー消費効率 (JIS C 9612 : 2013)			5.8
区分名			A
外形寸法	室内機		幅798×奥行222×高さ295mm
	室外機		幅763×奥行257×高さ596mm
質量	室内機		10kg
	室外機		30kg

※ 待機中もマイコンを動かせるため、5Wの電力を消費します。

※ 商品の仕様は予告なく変更することがあります。

※ JIS C 9612 : 2013(日本工業規格)の規定に基づき、対象となる6物質 (鉛・水銀・カドミウム・六価クロム・PBB・PBDE) の含有について情報を公開しています。詳しくはホームページをご覧ください。

https://www.irisohyama.co.jp/company/socialactivity/j_moss/

保証とアフターサービス

必ずお読みください。

■保証書

お買い上げの際に、所定の事項が記入されている保証書をお買い上げの販売店より必ずお受け取りください。

保証書がないと、保証期間内でも代金を請求させていただく場合がありますので、大切に保管してください。

■保証期間

保証期間は、保証書に記載されています。

保証期間内に故障した場合は、保証規定にしたがって修理させていただきます。

■保証期間経過後の修理

お買い上げの販売店またはアイリスコールにご相談ください。修理により製品の機能が維持できる場合は、ご希望により有料にて修理いたします。

■補修性能部品の保有期間について

当社はこの製品の補修性能部品の製造打ち切り後、9年間保有しています。

性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■アフターサービスについて

ご不明な点はお買い上げの販売店またはアイリスコールにお問い合わせください。

愛情点検



長年ご使用のエアコンの点検を！

こんな症状はありませんか

- 電源プラグ・電源コードが異常に熱くなったり、変色したり、こげくさいにおいがする
- ブレーカーが頻繁に落ちる
- 架台（置き台）や吊り下げなどの取付部品が腐食していたり、ゆるんだりしている
- 室内機から水もれがする
- 電源コードに破れがある
- 運転音が異常に大きい
- ボタンの操作が不確実
- その他の異常や故障がある

ご使用
中止

故障や事故防止のため、すぐに運転を停止し、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店またはアイリスコールに点検修理をご相談ください。

アイリスオーヤマ株式会社 〒980-8510 仙台市青葉区五橋 2 丁目 12 番 1 号
ホームページ <http://www.irisohyama.co.jp/>

製品及び修理に関するお問い合わせは

アイリスコール (通話料無料)

0800-919-0770

受付時間 平日 9:00～17:00、土・日・祝日 9:00～12:00 / 13:00～17:00
(年末年始・夏期休業期間・会社都合による休日を除く)

FAX でのお問い合わせは (通話料無料)

0800-888-2600

Web からの問い合わせは

<https://www.irisohyama.co.jp/support/>

メールフォームにご記入のうえ送信してください

ルームエアコン据付工事説明書

室内機	IRR-2219G	IRR-2819G	IRR-2219GX
室外機	IUF-2219G	IUF-2819G	IUF-2219GX

安全上の注意

据付工事の前に、この「安全上の注意」をよく読んでから据付してください。
据付工事説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。



警告

誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。

- 据付工事・移設・廃棄は、お買い上げの販売店または据付専門業者に依頼する
自分で据付すると、火災・破裂・感電・けが・水漏れの原因になります。
 - 据付工事は、冷媒R32用またはR410A用に製造された専用のツール・配管部材を使用し、この据付工事説明書に従って確実に行う
専用の配管部材を使用しなかったり、据付に不備があると、火災・破裂・感電・けが・水漏れの原因になります。
 - 据付は、強度を確認し、重量に十分耐える場所に確実に行う
耐荷重不足や取り付けが不完全なときは、機器の落下により、けがの原因になります。
 - 室外機は、ベランダの手すりの近くに据付しない
子供が上に登り、手すりを乗り越えて、落下事故につながります。
 - 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」、および据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する
また、電圧は製品の定格電圧に合わせる
電源回路容量不足や施工不備があると、火災・感電の原因になります。
 - 室内外機間の配線は、途中接続やより線の使用はせず、所定のケーブルを使用して確実に行う
配線が不完全なときは、発熱・火災・感電の原因になります。
 - 室内外機間の配線は、端子カバーを確実に取り付けて配線を固定し、端子接続部に外力が伝わらないようにする
カバーの取り付けが不完全なときは、端子部の発熱・感電・火災の原因になります。
 - 据付工事部品は、必ず付属部品または指定の部品を使用する
使用しないと、機器の落下・水漏れ・火災・感電の原因になります。
 - エアコンの据付や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒(R32)以外の空気などを混入させない
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧となり、破裂によるけがなどの原因になります。
 - 据付工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
 - 作業中に冷媒ガスが漏れたときは換気をする
冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因になります。
- アース工事を行う
アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全なときは、感電の原因になります。
 - 浴室など、水がかかったり、湿気が多い場所には据付しない
感電・火災の原因になります。
 - 電源プラグを差し込むときは、電源プラグ側だけでなく、コンセント側にもほこりの付着・詰まり・がたつきがないことを確認し、刃の根元まで確実に差し込む
ほこりの付着・詰まり・がたつきがあると、火災・感電の原因になります。コンセントにがたつきがある場合は、交換してください。
 - 据付作業では運転する前に、次のことを確認する
 - ・配管接続は確実に取り付け、漏れがないこと
 - ・サービスバルブの弁が開いていることサービスバルブが閉まった状態で圧縮機を運転すると、異常高圧となり圧縮機などの部品の破損の原因になります。また接続部で漏れがあると、空気を吸い込むなどして、さらに異常高圧となり、破裂・けがの原因になります。
 - ポンプダウン作業では、次のことを確実に行う
 - ・冷凍サイクル内に空気を混入させない
 - ・サービスバルブを2つとも閉じたあと、圧縮機を停止させ冷媒配管を外す圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管を外すと、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になって、破裂・けがなどの原因になります。
 - 電源コードは、極端に折り曲げたり、束ねたりしない
また、加工・途中接続・タコ足配線はしない
接触不良・絶縁不良・許容電流オーバーなどにより、火災・感電の原因になります。
 - 指定冷媒以外は使用（冷媒補充・入れ替え）しない
指定以外の冷媒を使用すると、機器の故障・破裂・けがなどの原因になります。
 - 室内機を持つときは、前面パネルに手を掛けない
作業中に前面パネルが開き、機器の落下によりけがの原因になります。
 - 漏電遮断器を取り付ける
漏電遮断器が取り付けられていないと、感電の原因になることがあります。



注意

誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり、物的損害が発生する内容を示しています。

- ドレン工事は、据付工事説明書に従って確実に排水するよう配管する
屋内に浸水し、家財等を濡らす原因になることがあります。
 - フレアナットは、トルクレンチを使用し、指定の方法で締め付ける
フレアナットを締め付け過ぎると、長期間経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因になります。
 - 据付作業では手袋*を着用する
着用しないと、部品などでけがをすることがあります。（*軍手などの厚手の手袋）
 - 室外機の吸込口やアルミフィンに触らない
けがの原因になります。
- 新築物件・リフォームなどの内装工事や、床面のワックスかけ時には、エアコンを運転しない
ワックスなどの揮発成分がエアコン内部に付着し、水漏れや水飛びの原因になります。作業終了後は、エアコンを運転する前に十分に換気を行ってください。
 - 室外機は、小動物のすみかになるような場所には据付しない
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、火災・故障の原因になることがあります。また、お客様には、周辺をきれいに保つことを依頼してください。



この家庭用エアコンには、GWP（地球温暖化係数）が675のフロン類（R32）が封入されています。フロン類が排出されると地球温暖化が進みます。移設・修理・廃棄するときは、フロン類の回収が必要です。
フロン類に関するお問い合わせは、アイリスコールへお願いいたします。

据付工事完了後、「12 試運転」と「13 点検」の確認を行い、本説明書をお客様にお渡しください。
また、本説明書は、取扱説明書とともに保管していただくように、お客様に依頼してください。

冷媒配管について

配管キットを使用するとき

- ・必ず、配管肉厚が0.8mmのものを使用してください。

一般の銅管を使用するとき

- ・銅管はJIS H3300「銅および銅合金継目無管」のC1220Tタイプで、内部の付着油量40mg/10m以下、配管肉厚は0.8mmのものを使用してください。
- ・アルミ材を使用した冷媒配管は使用しないでください。

フレアナットおよびフレア加工

- ・フレアナットはエアコン本体付属のものに交換してください。

●このエアコンは、冷媒R32を使用しています。
据付にはR32もしくはR410A対応の工具を使用してください。

据付場所の選定

■ 据付場所の選定

室内ユニット

- ・据付板の周囲に「穴あけ寸法図」に示した間隔を取れる場所
- ・吸込口、吹出口の近くに障害物のない場所
- ・重量に耐える場所
- ・直射日光が当たらない場所
- ・温風（冷風）が部屋全体に行きわたる場所
- ・高周波機器、無線機器等の影響を受けない所
- ・テレビやステレオなどの機器から1m以上離す（映像の乱れや雑音が入ることがあります。）
- ・カーテンボックス、カーテンレールから離す
- ・エアコン（吹き出し口）と火災警報器は、1.5m以上離す
- ・浴室など、水がかかったり、湿気が多かったりする場所は避ける
- ・室内ユニットの下面から床まで1.8m以上離す

室外ユニット

- ・室外ユニットの周囲に、右図で示した間隔を取れる場所
- ・強風の当たらない場所（特にビルの屋上では、風が強く室外ファンが破損することがあります。）
- ・風通しがよく吸込口・吹出口の近くに障害物のない場所
- ・ユニットの重量に十分耐える場所で水平位置を保てる場所
- ・運転音や振動が増大しない場所
- ・可燃性ガスの漏れるおそれのない場所
- ・排水されたドレン水が流れても問題ない場所
- ・接続配管の長さ、室内外ユニットの許容落差は次の通りとすること

機種名	接続配管長さ	落差
IRR-2219G／ IRR-2819G／ IRR-2219GX	15m (ただし10m以上は冷媒補充が必要)	10m

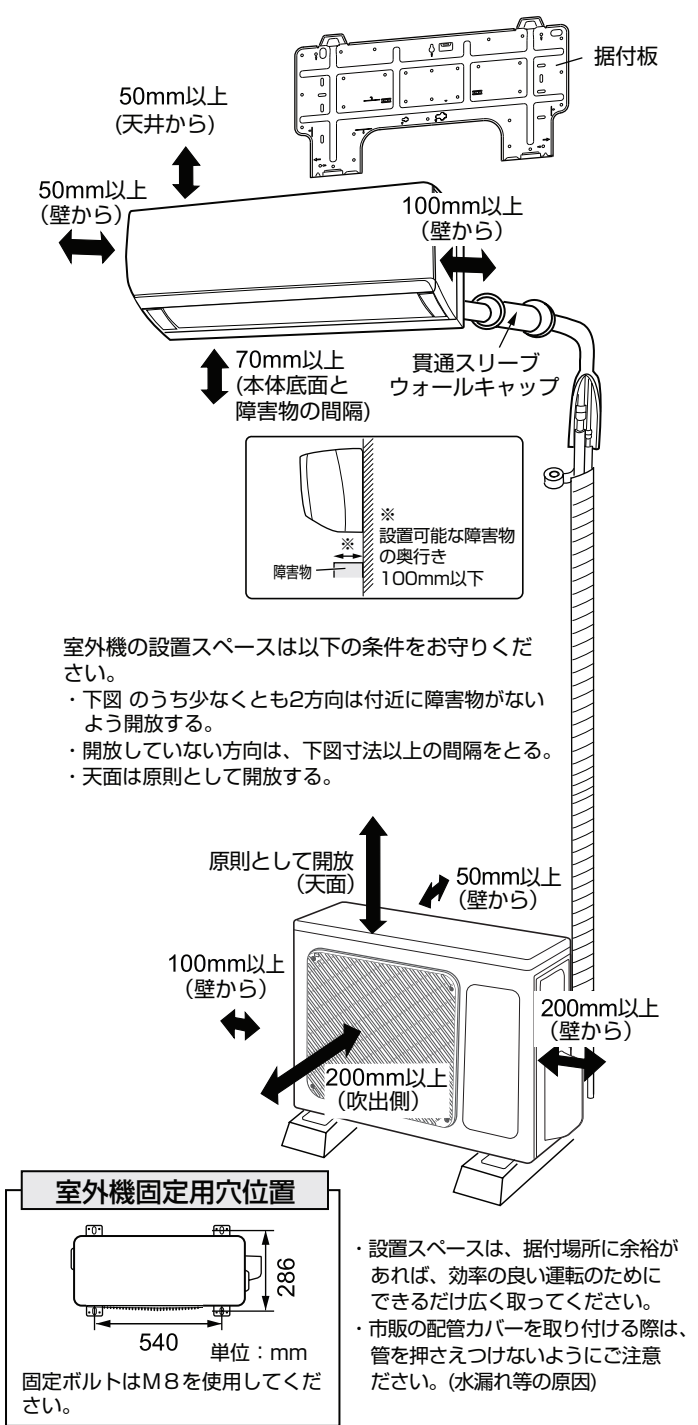
※冷媒は、延長1m当たり20g補充してください。
・雨や直射日光が当たる場所への据付には、市販の「日除け屋根」をご利用ください。

以下のような所は避けてください。

- ・塩害地や、ビル上層部など、常時強風が当たる所
- ・油・蒸気・油煙・腐食性ガスの発生する所
- ・温泉地のように硫化ガスの発生する所

お願い

公団アパートやマンションなどの鉄筋コンクリート造建築物で、室外機を、ベランダ・天井から吊り下げて据付するときは、室外機と天井のすき間を80mm以上空けてください。また、室外機と据付具の間に防振ゴムを入れてください。

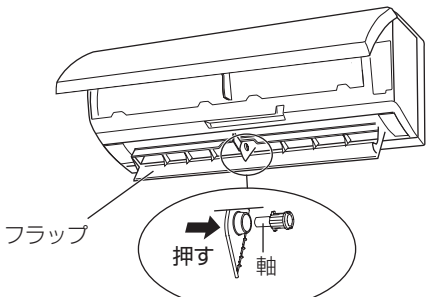


本体パネル・前面パネル・フラップの取り外しかた

※通常、本体パネル・前面パネル・フラップを取り外す必要はありません。取り外す必要があるときは、以下の手順で行ってください。
※本体パネル・前面パネル・フラップを取り外すときは、運転を停止し、電源プラグコンセントから抜いてください。

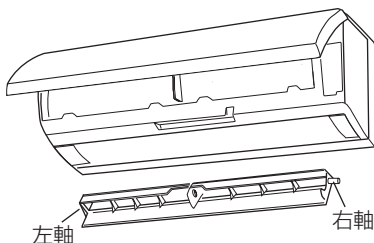
■ フラップの取り外しかた

- ① 中央の軸を押して取り外します。

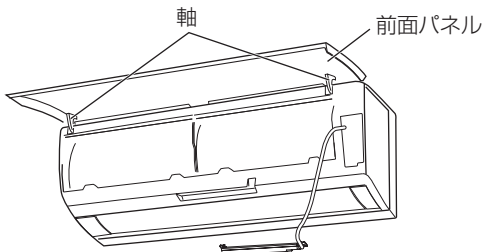


※右方向に軸が飛び出すことがあるので、手で軸を受けながら、外してください。

- ② 左→右の順に軸を外して、フラップを取り外します。

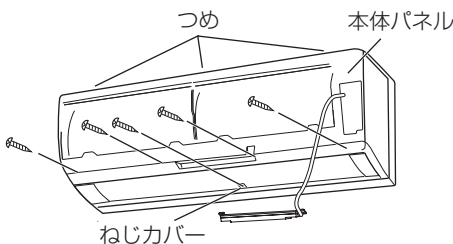


- ② ほぼ水平位置まで前面パネルを開きます。
③ 左右の軸を内側に押して外し、前面パネルを手前に引き抜きます。



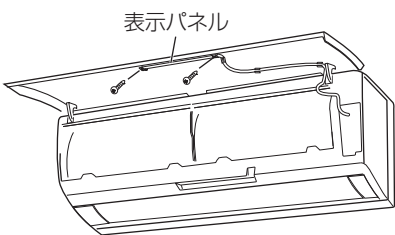
■ 本体パネルの取り外しかた

ねじ（5本）を外し、本体パネルを取り外す。
上面のつまみ（3か所）を押さえてロックを外し、手前に引き抜きます。



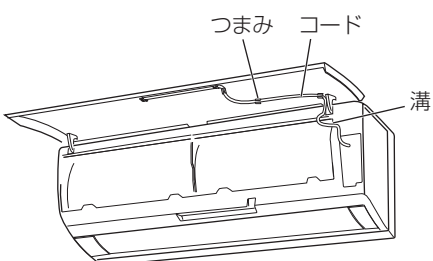
■ 前面パネルの取り外しかた

- ① ねじ（2本）を外し、表示パネルを前面パネルから取り外します。



■ 本体パネル・前面パネル・フラップの取り付けかた

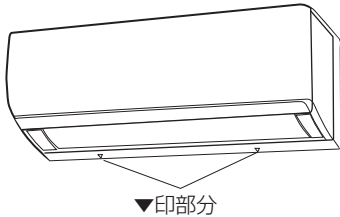
取り付けは、取り外しの逆の手順で行ってください。
表示パネルのコードは、つまみ（2か所）と溝で、固定してください。



据付後の取り外しかた

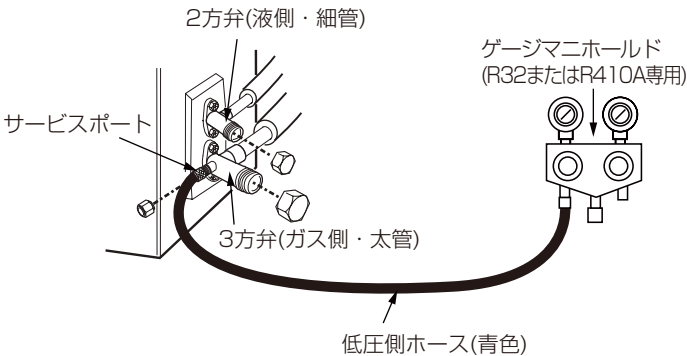
■ 室内ユニット

- 本体底面の▼印部分(左右2カ所)を押し上げ、つまみを浮かせながら本体を手前に引く。本体底面のつまみが据付板から外れます。



■ 室外ユニット

- 地球環境保護の観点から、ポンプダウン（冷媒回収）をしてから取り外します。
- ① 3方弁のサービスポートに圧力計（ゲージマニホールド）を取り付けます。
- ② エアコンを強制冷房運転させます。（5～10分間程度）強制冷房運転は、「12 試運転」を参照してください。暖房運転ではポンプダウンはできません。
- ③ 2方弁を全閉にします。
- ④ 圧力計が、ほぼ0MPa（0kgf/cm²）になるのを確認後、すみやかに、3方弁を全閉にし、エアコンの運転を停止させます。長時間、運転し続けると故障の原因になります。
- ⑤ 圧力計（ゲージマニホールド）、接続配管を外します。



警告

ポンプダウン作業では、次のことを確実に行ってください

- 冷凍サイクル内に空気を混入させない
- サービスバルブを2つとも閉じたあと、圧縮機を停止させ冷媒配管を外す

圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管を外すと、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・けがなどの原因になります。

■ 既設配管を再利用のときの注意

- 古いエアコンを取り外すときは、必ずポンプダウンを行い、冷媒・冷凍機油の回収を行ってください。
- 配管肉厚が0.8mmあること（JIS規格の配管）
- フレアはR32対応に切り直し、φ12.7mmの既設配管のときはフレアナットの変更が必要です。
- ポンプダウンができないとき・配管内が極端に汚れているときは、洗浄するか新しい配管に交換してください。
- 施工には、R32対応の工具を使用してください。
- 一部の機種では、接続配管径の仕様が異なりますので、このときは、買い換え後のエアコンに合った新しい配管を使用してください。
- 配管に腐食・亀裂・傷・変形・劣化などがなければ、点検してください。
- 配管以外の部材（断熱材や配管支持部材など）も再使用可能か点検してください。
- 再使用不可能のときは、補修または新しい配管に交換してください。

こんなときには

室内機が運転しない

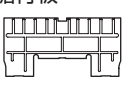
- 電源電圧が200Vになっている可能性があります。電源電圧を確認してください。

室外機が運転しない

- ユニット間配線の接続不良の可能性があります。接続の再確認をしてください。

同梱付属部品

室内機用（室内機に同梱）

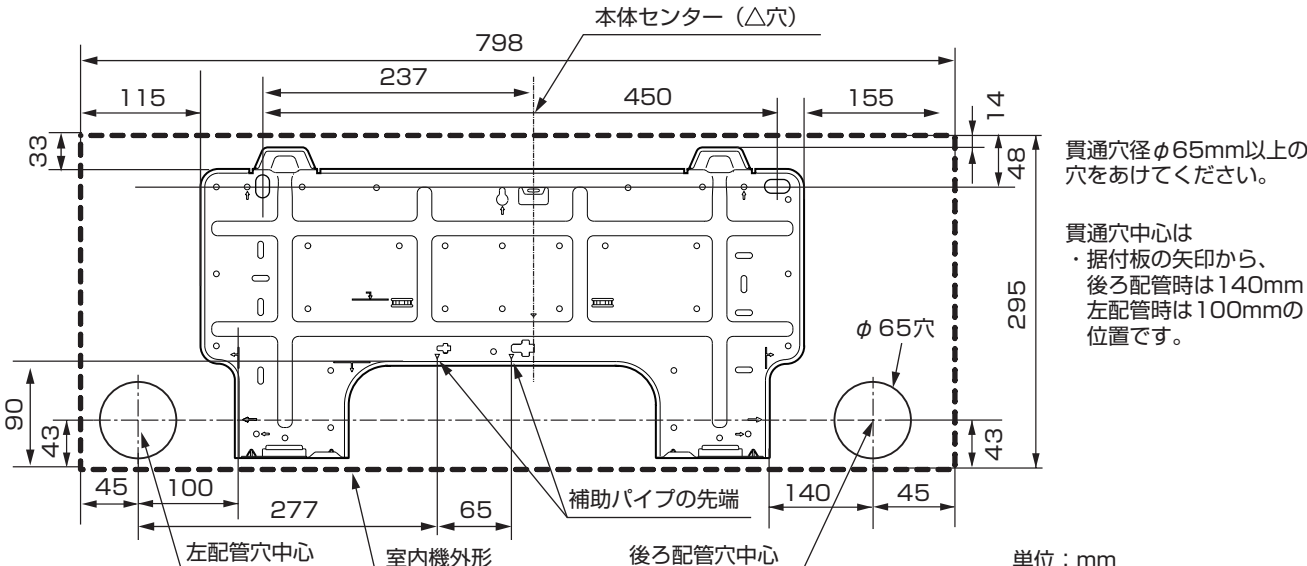
① 据付板  1枚	② 据付板取付ネジ（長さ25mm）  5本	③ リモコン  1個
④ 乾電池（単4形）  2本	⑤ フレアナット φ6.35mm（1/4"）  1個	⑥ フレアナット φ9.52mm（3/8"）  1個

付属品	個数
据付工事説明書	1
取扱説明書	1
保証書	1

室外機用（室外機に同梱）

⑦ ドレン口  1個

穴あけ寸法図



1 据付板の取り付け・配管穴あけ

■ 据付板の取り付け

据付板は水準器をあてて、水平に取り付けてください。

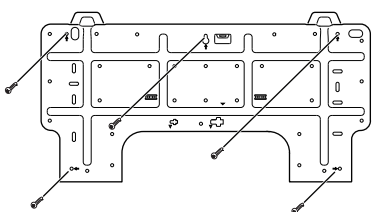


壁に直接取り付けする場合

- 取付ねじを5本以上用いて固定してください。
(5本同梱しています。必要に応じて追加してください。)

据付板固定位置にねじ止めすることをおすすめします。

据付板固定位置：5カ所(⇐ の刻印があります)



- 板壁内の構造物(間柱、桟等)を利用し取り付けてください。
間柱等をさがすが困難な場合は、ボードアンカー(市販品)等をご使用ください。



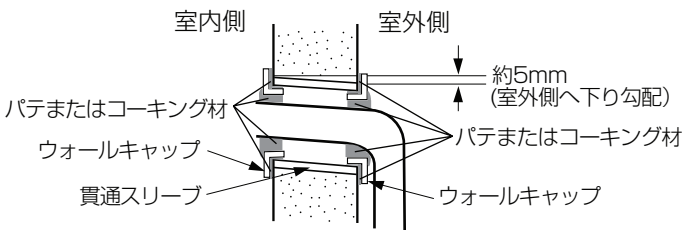
- 壁が石膏ボードの場合、壁厚に応じた樹脂製のカサ式ボードアンカーをご使用ください。**ねじ込み式は使用しないでください。**
(保持強度が極端に落ちる場合があります。)
- 取り付け後、手で引っ張って強度を確かめてください。
- 住宅公団等、埋込みボルトがある場合は、公団用取付穴を利用して取り付けてください。

回り縁と鴨居につける場合

- 取付アングル(市販品)を使用してください。

■ 配管穴あけ

- ①壁に穴を室外側へ下り勾配にあけます。(ドレン排水のため)
- ②貫通スリーブ、ウォールキャップを取り付けます。



- 接続ケーブルや配管の保護、小動物の侵入防止、結露による水漏れ防止のために、必ず使用してください。
 - メタルラス、ワイヤラス等、金属を使っている壁は、必ず使うように電気設備技術基準で定められています。
- ③すき間をパテまたはコーキング材でシールします。
- 化粧カバー仕上げの場合も必要です。
 - シールが不完全な場合、雨水の浸入による壁内部の腐食や外気の流入による結露の原因となります。

2 電気工事

- 電源はルームエアコン専用とし、エアコン専用コンセントを電源コードの届くところに据付してください。
- コンセントは新しいものを使用してください。
- プラグの交換や延長などの電源コード改造や、延長コードの使用は絶対にしないでください。故障や火災の原因になります。
- 電源コードをビニールテープなどで巻いて収納しないでください。
- 電源電圧を必ず確認してください。

電源コードの長さ

電源方式	左出し	右出し
単相100V	① 1.1m	1.8m

電源について

電源方式	コンセント定格・マーク・形状
単相100V	125V 15A ② ③

- 電源回路容量に十分余裕のあるように配線工事を行ってください。また、機種と据付場所によっては感電防止のため漏電遮断器の取り付けが法規上必要な場合があります。

3 ドレンホースの付け替え（左配管の場合）

左配管の場合、本体パネルを外して、ドレンホースを付け替えてください。

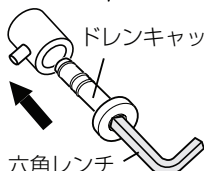
1. ドレンホースを引き抜きます。

- ①フックを矢印の方向に回してロックを解除します。
- ②ドレンホースを引き抜きます。



2. ドレンキャップを取り付けます。

- 六角レンチ(対辺4mmもしくは5mm)を使って、奥まで差し込みます。

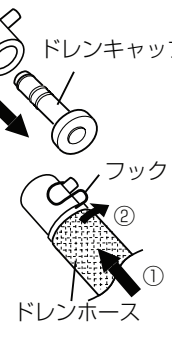


1. ドレンキャップを引き抜きます。

2. ドレンホースを差し込みます。

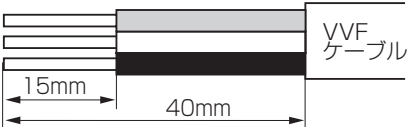
- ①ドレンホースを差し込みます。
- ②フックを矢印の方向に回してロックします。

※ドレンホース内側のゴムを水で湿らすと挿入しやすくなります。



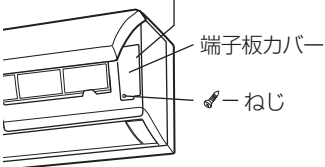
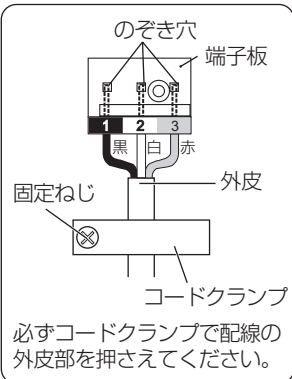
4 室内機のユニット間配線

- ①ユニット間配線を加工します。
ユニット間配線は、φ2.0mm VVFケーブル（3心）を使用してください。



- ②前面パネルを開け、端子板カバーを外します。
- ③固定ねじを取り外し、コードクランプを外します。
- ④ユニット間配線の接続をする。

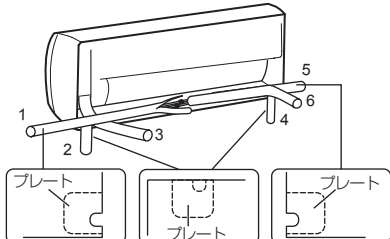
- ユニット間配線の心線を、端子板の奥まで確実に挿入してください。(のぞき穴から心線が見えていることを確認してください。)
 - 端子番号に注意してください。誤配線すると内部の制御回路が破損したりします。
- ⑤コードクランプと固定ねじでユニット間配線を固定します。
- ⑥端子板カバーを取り付け、前面パネルを閉めます。



5 配管の引き出し・室内機取り付け

■ 配管の引き出し

- 1、2、4、5の方向のときは、プレートを切り取ってください。
- 切り取り時、本体内部の配線(電源コード、ユニット間配線)、ドレンホース、補助パイプを傷つけないように注意してください。また、切り取り後は、これらを傷つけないよう、鋭い切断面は処理してください。

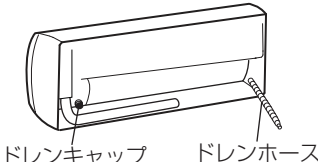


後・右・下配管の場合

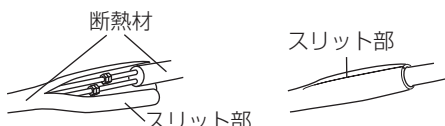
- ①ドレンホース、補助パイプ、ユニット間配線を配管穴に通します。
ドレンホースはトラップのないようにしてください。

左配管の場合

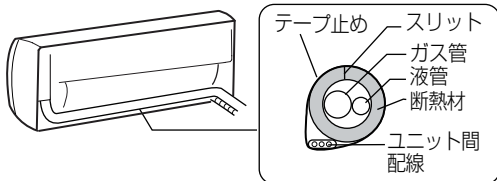
- ①ドレンホースとドレンキャップを付け替えます。
「3 ドレンホースの付け替え」を参照



- 製品のドレンホースを必ず使用してください。
- ②配管を接続します。「8 配管接続」を参照
接続後、石けん水で冷媒漏れを確認してください。
- ③配管とユニット間配線をテープで止めます。
断熱材のスリット部を上向きにして、すき間のないように密着させてビニールテープで巻いてください。



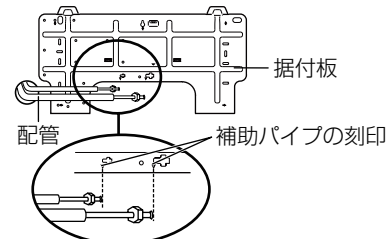
- ④本体背面に配管類を収納する。



- ⑤ドレンホースと配管、ユニット間配線をまとめて配管穴に通します。
ドレンホースはトラップのないようにしてください。

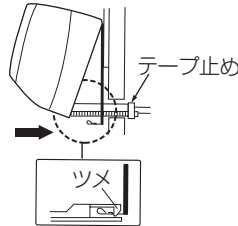
左配管時の配管の成形

据付板上の「補助パイプの刻印」にフレア先端部を合わせて成形します。



■ 取り付け

- ①本体上部を据付板に引っ掛けます。
- ②本体下部を押し込んで固定します。
固定後、本体下部を手前に引っ張り、確実に本体が固定されているか確認してください。



電源コードが余った場合、エアコン背面のスペースのある所にゆったりと収納してください。

- 小さく折りたたんだり狭い所へ押し込まないでください。また、本体と据付板（とくに本体裏面のつめと据付板の受け部の間）にはさまないように注意してください。電源コードが破損し、発熱・火災の原因になります。
- 電源コードを室内機の上面にのせないでください。

6 室内機のドレン工事

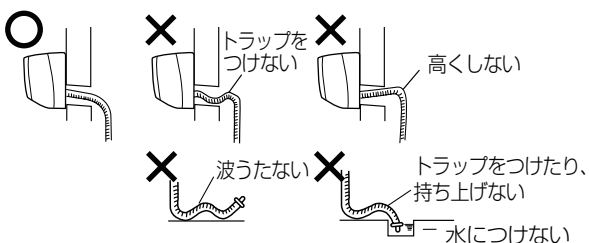
ドレン工事は、ドレン水が流れやすいように下り勾配をつけてください。(2°以上)

- ドレンホースを延長する場合は、内径16mmのホースを使用してください。



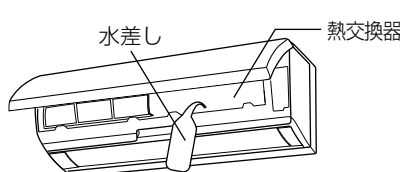
- ドレンホースが持ち上ったり、トラップをつけたり、ホースの先が水につからないよう注意してください。水漏れ、異音等の原因になります。
- 延長したドレンホースが室内を通るときは、断熱材を巻いてください。

ドレンホースにトラップがあると、高気密住宅などで強い風をうけた時や換気扇などを使用した場合、「ポコポコ」という音が出ることがあります。トラップの修正をしてください。修正が困難な場合は対応部品として、エアコン用逆流防止弁(市販品)を取り付けてください。



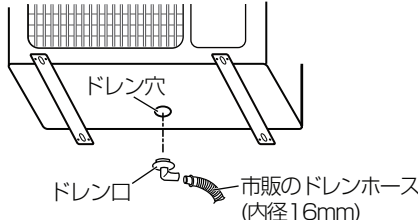
ドレン排水の確認

- ①前面パネルを開け、エアーフィルターを外します。
- ②水を熱交換器につたわせて、ゆっくり注入します。
- ③ドレンホースから水が流れていることを確認します。



7 室外機のドレン工事

暖房運転時、除霜等により室外機ドレン穴から水が流れ出ます。排水処理をする場合はドレン工事を行ってください。



寒冷地でのお願い

寒冷地ではドレン水が凍結するので、ドレン工事は行わないでください。
寒冷地: 日中でも外気温0℃以下の日が2～3日連続する地域

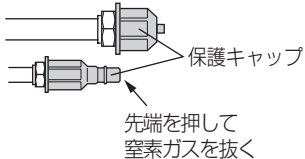


警告

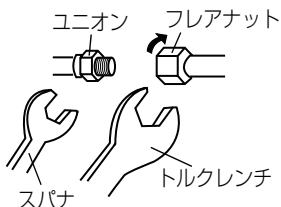
- より線及びφ1.6 mm VVFケーブルは使用しないでください。接触不良の原因となります。
- VVFケーブルは中継器などを使って中継接続しないでください。接触不良を起こして、火災の危険があります。

8 配管接続

- ・接続配管は、「JIS H3300」に定める「リン脱酸銅継目無管(C1220T)」で、配管肉厚は0.8mmのものをご使用ください。
- ・配管内への異物（油分、水分等）混入に十分ご注意ください。
- ・通常は室内機側、室外機側の順に配管接続してください。
- ・フレア面への冷凍機油の塗布は行わないでください。
- ・室内機の配管にフレアナットは取り付けられていません。付属のフレアナットをお使いください
- ・室内機に窒素ガスが封入されています。細管側の保護キャップ先端をドライバーで押して窒素ガスを抜いてから、保護キャップを取り外してください。



- ①フレアナットは、最初の3～4回を手で締め付けます。
- ②トルクレンチを使用し、指定の締付トルク値公差内でしっかりと締め付けます。
トルクレンチとスパナを用い、2丁スパナ方式で締め付けてください。(締め付け不足、及び締め付け過ぎは、冷媒漏れや変形・破損の原因)



フレアナット締付トルク

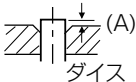
		2面幅		適合 トルクレンチ
		ユニオン	ナット	
細管側	φ6.35mm(1/4")	14mm	17mm	16±2N・m
太管側	φ9.52mm(3/8")	17mm	22mm	38±4N・m

《既設配管再利用時のご注意》

- ・配管肉厚は0.8mmが前提条件です。(JIS規格の配管)
- ・フレアはR32/R410A用に必ず再加工してください。(下記「**配管のフレア加工について**」参照)

配管のフレア加工について

1. パイプカッターで配管を切断します。
切断面は直角にしてください。
2. バリ取りします。
切粉を管内に入れないようにしてください。
3. フレアナットを挿入します。
フレアナットは必ずエアコン本体のものを使用してください。
4. フレア加工します。
ダイスからの出し代(A)を正しくセットしてください。
出し代(A): 0～0.5mm
(R32またはR410A用フレア工具の場合)
5. 確認します。



- ・真円で均一にフレア加工されている
- ・フレア内部外部共にキズがない
- ・フレアナット挿入忘れ

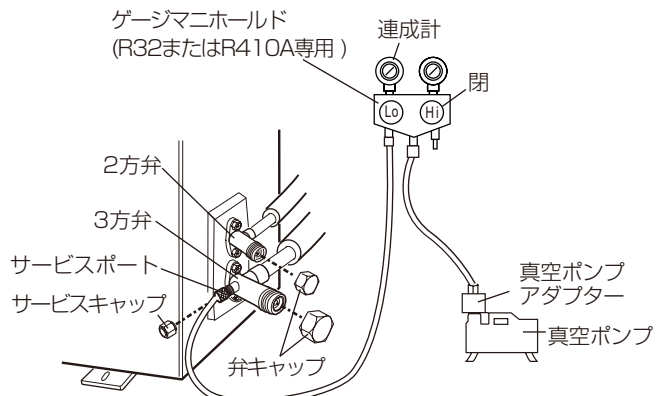
フレア加工は、正しく確実に行ってください。
冷媒が漏れる原因になります。

- ・古いエアコンが故障等により、ポンプダウンができない場合や配管内が極端に汚れている場合は、配管洗浄するか、新しい配管に交換してください。

9 エアパージ・冷媒漏れ確認

■ エアパージ

- 地球環境保護の観点から、エアパージは真空ポンプ方式でお願いします。
- ①太管側（3方弁）のサービスキャップを外します。
 - ②3方弁のサービスポートにゲージマニホールドのチャージホスを接続します。
金具のついている側(虫ピンを押す側)を接続してください。
 - ③ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全開にします。
 - ④真空引きを10～15分間行い、連成計が-0.1MPa (-76cmHg)になっていることを確認します。
 - ⑤ゲージマニホールドの低圧側バルブ(Lo)を全閉にします。
 - ⑥真空ポンプを停止します。
1～2分間そのままの状態にし、連成計の針が戻らないことを確認してください。(接続部の漏れ確認のため)
 - ⑦細管側(2方弁)、太管側(3方弁)の弁キャップを外します。
 - ⑧2方弁の弁棒を六角レンチ(4mmまたは5mm)を使って、反時計方向に90° 開き、5秒後に閉じ冷媒漏れの確認します。
 - ⑨サービスポートからゲージマニホールドを外します。
 - ⑩2方弁を全開にします。
(当たりがあるところまで回してください。)
 - ⑪3方弁を全開にします。
(当たりがあるところまで回してください。)
 - ⑫2方弁、3方弁の弁キャップとサービスキャップを取り付けます。
トルクレンチを用いて、指定の締付トルク値公差内で、しっかりと締め付けてください。



弁キャップ締付トルク

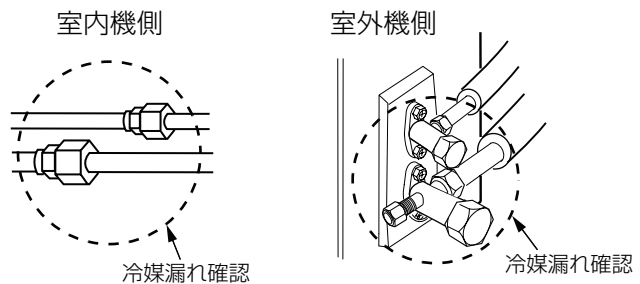
	キャップの2面幅	適合トルクレンチ
細管側	φ6.35mm(1/4")	19 mm 24±3N・m
太管側	φ9.52mm(3/8")	19 mm 24±3N・m

サービスキャップ締付トルク

キャップの2面幅	適合トルクレンチ
17 mm	11±1N・m

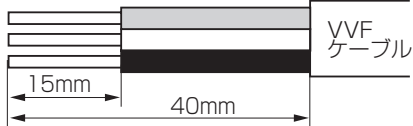
■ 冷媒漏れ確認

- ・室内機側はフレア部周辺を、室外機側はフレア部周辺・弁棒周辺を、石けん水を塗布してチェックしてください。
- ・チェック後は、ふき取ってください。
- ・リークディテクターで冷媒漏れ確認をする場合はHFC冷媒対応のものを使用してください。

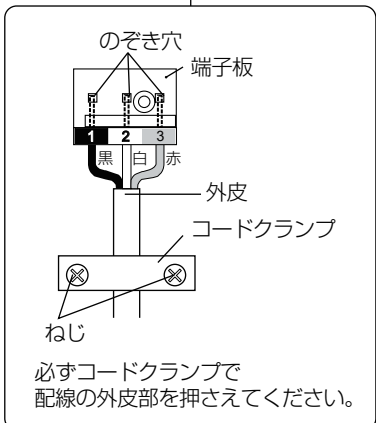
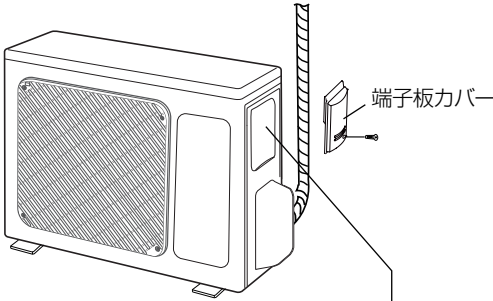


10 室外機のユニット間配線

- ①ユニット間配線を加工します。



- ②端子板カバーを外します。
- ③ユニット間配線の心線を端子板の奥まで確実に挿入します。
のぞき穴から心線が見えていることを確認してください。
配線は必ず、室内機の端子板の番号と合わせてください。
- ④ユニット間配線の外皮をコードクランプとねじで固定します。
- ⑤ユニット間配線が確実に固定されているか確認します。
- ⑥端子板カバーを取り付けます。



警告

VVFケーブルは中継器などを使って中継接続しないでください。

- 中継器を使用すると接触不良を起こして、火災の危険があります。

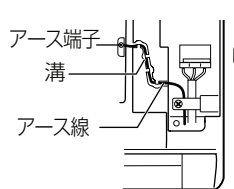
11 アース工事・漏電しゃ断器

アース工事や漏電しゃ断器の取り付けは、「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って行ってください。

■ アース工事

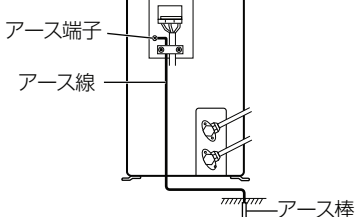
- 必ずアース工事を行ってください。
(行っていないと、通電時にエアコン本体に触れたとき、電気を感じる場合があります。)
- ・アース工事は、**電気工事士の資格がある方が行ってください。**
 - ・接地抵抗は100Ω以下にしてください。(漏電しゃ断器を取り付けた場合は500Ω以下にしてください。)
 - ・アース棒およびアース線は市販品を使用してください。
 - ・室内機・室外機のいずれか一方に対し、アース工事をしてください。
 - ・製品に取り付けているアース端子以外のねじは絶対に使用しないでください。(配管の損傷により、冷媒が漏れる原因となります。)

室内機



- ①前面パネルを開け、エアーフィルターを外します。
- ②端子板カバーを外します。
- ③アース線をアース端子に接続します。
- ④アース線を溝に押し込みます。
(溝に押し込まないと、水漏れの原因になります。)

室外機



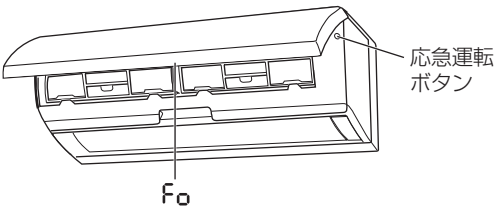
■ 漏電しゃ断器について

- ・万一漏電したときの感電防止のため、漏電しゃ断器を設置してください。
- ・漏電しゃ断器は、定格感度電流30mA以下、動作時間0.1秒以下の電流動作高感度高速タイプを使用してください。

12 試運転（必ず行なってください）

試運転は、15分以上行い、風が冷えていることを確認してください。

- ①本体の応急運転ボタンを5秒以上押し続けます。
 - ・「Fo」と表示し、強制冷房運転をします。約25分間後、強制冷房運転は終了します。



- ・強制暖房運転はできません。
- ②停止するときには、本体の応急運転ボタンをもう一度押します。

試運転中に下記症状になった場合は、ご確認ください

- 「E6」表示：ユニット間配線が正しいか。
- 「PH」表示：電圧が正しいか。
- 冷風が出ない：2方弁、3方弁が開いているか。

13 点検

- ・据付工事完了後、□の中に✓印を入れて確認し、このチェックシートをお客様にお渡しください。

- ☐ 据付場所は、エアコンの重量に十分に耐え、騒音や振動が増大しない場所です。
- ☐ 電源は専用回路を使用し、電源電圧に問題のないことを確認しました。
- ☐ 電源コードの中間接続や延長コードの使用、タコ足配線は行っていません。
- ☐ コンセントと電源プラグががたつきはありません。
- ☐ 内外接続線の中間接続は行っていません。
- ☐ アース線の接続は確実に行いました。
- ☐ 壁穴部のシールは確実に行いました。
- ☐ 配管接続部のリークテストを行い、冷媒が漏れていないことを確認しました。
- ☐ 配管は断熱材でしっかり覆い、テープでシールしました。
- ☐ サービスバルブの弁棒は全開にしました。
- ☐ 室内機に水を流して、確実に排水されることを確認しました。
- ☐ 試運転を行い、冷房・暖房運転が正常であることを確認しました。
- ☐ 取扱説明書をもとに、お客様に正しい取扱方法と運転方法を説明しました。

確認日: 年 月 日

確認者:

工事(施工)会社名:

問合わせ先 電話番号: